

受付番号

2025-47

許可番号

大歯医倫 第 111440 号

研究課題名

矯正治療時留意すべき切歯管、上顎洞、顎骨の症例別考察（歯根との距離、皮質骨や海綿骨の

研究責任者

安井 憲一郎

申請者

安井 憲一郎

研究終了日

2027 年 3 月 31 日

所属

歯科矯正学講座

所属

歯科矯正学講座

職名

講師

職名

講師

申請の概要

切歯管や上顎洞といった骨のない部位に歯を移動することは、歯根吸収等のリスクを伴うと考えられている。しかし切歯管や上顎洞と歯根との関連研究や報告は少ない。特に歯の移動に伴い切歯管や上顎洞との接触により起こる反応（骨のリモデリングや歯根の吸収）など学術的に不明なことが多い。矯正歯科治療を行う上で、切歯管や上顎洞と歯根との位置や距離を把握することは、診断や治療の予後の予測に重要である。また歯の移動の際に歯根が歯槽皮質骨に接触すると歯根吸収もしくは歯槽骨を突き破る等の反応が起きるが、これについても詳細が不明であり皮質骨の厚み・骨質・海綿骨のデータ採取は将来的に重要である。そこで本研究では、外科矯正・埋伏歯の開窓牽引治療開始時に撮影する CT 画像とレントゲン画像（パノラマ、セファロ）と MRI 画像を用いて歯根と切歯管・上顎洞との近接具合と皮質骨・海綿骨の厚み・骨質を計測し評価する（研究のためあらたに検査をすることはない）。本研究により、歯科矯正治療について予測性の高い診断・治療が可能となるものと期待される。